

#### ④ エルゼビア社のデータベースで見る日本の論文生産

いままで論文生産の状況については、もっぱら Thomson Reuters 社が保有するデータベースに基づく資料を通じて見てきたが、もう一つの国際的な書誌・引用データベースとして、Elsevier 社の”SciVerse Scopus”が存在する。

これによれば、世界 34 ヶ国中唯一日本のみが近年の論文数の伸びがマイナスになっている。一見すると図 2-60 で掲げた Thomson Reuters 社のデータベースに基づく論文数の推移とは異なる状況にあるかのように見受けられるが、日本と他の国々との相対的な関係として見れば、両社のデータベースは基本的に同様な結果を示していると解することが可能である(注)。

このことから、今まで述べてきた日本の論文生産が諸外国と比較して顕著に伸び悩んでいるという現象は、特定の会社のデータベースの特性には帰することができない、相当の確度を以て検証された「現実」であると受け止める必要があると考えられる。

注) 両社のデータベースの収録対象ジャーナルが全く同様ではないこと、また両社とも年々収録対象ジャーナルを更新・増加しているが、その更新・増加の状況が同様ではないことにより、個々の国の論文数の推移を見ると 2 つのデータベースの結果は一見かなり異なるものとなる。

日本以外の各国の論文数の伸び率を見ると、Thomson 社の方では直近の数年間の伸び率が高く、一方で Elsevier 社の方では 2002 年から 2004 年くらいの高伸び率を示している。これらは両者の収録対象ジャーナルが大きく増加した時期がそれぞれ異なっていることを反映したものと推測され、そうした要因を捨象した純粹に各国間の相対的な関係に着目すれば、2 つのデータが意味するところはほぼ同一であると考えられる。(ただし仔細な事象に関してまで同一の傾向を示すとは限らないことは当然である。)